

老朽美浜3号機運転禁止仮処分却下決定に対する即時抗告申立事
 抗告人 ほか7名
 相手方 関西電力株式会社

証拠説明書(甲号証)

2023.1.4

抗告人ら訴訟代理人弁護士 井戸謙一

番号	枝番	標目	作成者	作成年月日	原本・写しの別	立証事項
145	1	福島第一原発1号炉の格納容器内部 鉄筋がむき出しになったペDESTAL	上澤千尋	2022.9.1	写し	福島第一原発1号機のペDESTALの1.2メートル厚のコンクリートが消失しており、鉄筋がむき出しになっていること
	2	ご挨拶	森重晴雄	2022.6.20	写し	福島第一原発1号機は400ガルの地震で倒壊する恐れがあること
146		小児甲状腺がん患者338人に～福島県県民健康調査	OurPlanet-TV	2022.12.2	写し	2022年12月3日に開催された福島県県民健康調査検討委員会の公表によれば、福島原発事故後の福島県内の小児甲状腺がん患者は、合計338人に達すること
147		判決正本(抄)	東京地裁民事第8部裁判官	R4.7.13	写し	いわゆる東電株主代表訴訟判決において、東京地裁が判示した原子力発電所事故に対する認識
148		伊方原子力発電所環境安全管理委員会原子力安全専門部会議事録(抄)	伊方原子力発電所環境安全管理委員会原子力安全専門部会	H27.8.12	写し	原子力規制委員会は、安全目標を定めるについて、「社会的受容性」などは検討しておらず、社会心理学等理科系でない専門家の関与も、パブコメ以外に国民の意見を考慮す必要もないと考えていること
149		「原発はどのように壊れるか」抄【表紙、11章(99頁～118頁)部分】	小岩昌宏、井野博満	H30.3.31	写し	金属、とくに原発で使われる構造材料の経年劣化で重要なのは、照射脆化、金属疲労、腐食であること。この3つの経年劣化の説明、原発で問題となる点等について
150		関電美浜3号機また延期検査中、冷却系統でトラブル	時事通信社	2022.8.24	写し	2022年8月21日、本件原発が冷却系統でトラブルを起こし、相手方は、同月23日に予定されていた本件原発の起動を延期したこと
151		意見書	芦田讓	2017.11.30	写し	原発敷地で三次元の反射法地震探査をしないと、副断層の存在等、正確な地盤構造の把握はできないこと

番号	枝番	標目	作成者	作成年月日	原本・写しの別	立証事項
152	1	美浜発電所基準地震動策定における問題点～地盤構造モデルについて～(抄)	赤松純平	2018.6.10	写し	京都大学名誉教授芦田譲氏が、相手方が美浜原発敷地でした二次元反射法地震探査結果に基づき、相手方が把握していない副断層(逆断層)の存在を指摘していること
	2	美浜発電所基準地震動策定における問題点～地盤構造モデルについて～ 図幅・註(抄)	赤松純平	2018.6.10	写し	甲第148号証の1の意見書に引用されている図幅
153		「東電役員に13兆円の支払いを命ず」(抄) 表紙、奥付、62頁～67頁	河合弘之・海渡雄一・木村結・只野靖・甫守一樹・大河陽子・北村賢二郎	2022.10.25	写し	福島第一原発事故で放出された放射性物質によって、双葉病院の寝たきり患者らの救助は阻まれ、40名もの患者が命を奪われているところ、その救助作業は、「線量計(累積線量が1 μ Sv上がるごとに音が鳴る)の音が鳴る間隔がどんどん短くなり、放射線の塊が近づいてくるような感覚」、「随行していた若い医官が『もうだめだ。逃げる』などと叫び始めた」という衝撃的な状況であったことなど。
154		「阪神・淡路大震災教訓情報資料集阪神・淡路大震災の概要」(写し) https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin_awa_ji/earthquake/index.html	内閣府		写し	1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)では、震度7の地点が神戸市須磨区鷹取から宝塚市の一部まで約30km超の範囲に広がっていること
155		食品安全委員会委員長談話～食品に含まれる放射性物質の食品健康影響評価について～(写し) https://www.fsc.go.jp/sonota/radio_hyoka.data/fsc_incho_message_radorisk.pdf	食品安全委員会委員長	2011/10/27		厚生労働大臣から放射性物質の食品健康影響評価の要請を受けた食品安全委員会は報告書を出すに際して、2011年10月27日付の食品安全委員会委員長の談話において、食品に関する健康影響評価として「生涯」で100mSvと明言していること
156		証人調書(写し)(抜粋:表紙、25頁から27頁)	福島地方裁判所	R2.3.4		福島第一原発事故時に、放射線健康リスクアドバイザーを引き受けて被災地で多数の講演会を実施していた山下俊一氏は、1年間で100ミリシーベルトの被ばくは癌のリスクがないと発言したことについて、その意味するところは「最高1年間で100ミリシーベルト」であり、その前後の年は年間100ミリシーベルトの被ばくをしない前提である旨を証言していること

番号	枝番	標目	作成者	作成年月日	原本・写しの別	立証事項
157		国会事故調報告書(抄) (表紙、402頁から407頁、 440頁から446頁)	東京電力福島 原子力発電所 事故調査委員 会	2012/6/28	写し	福島第一原発事故時に住民が無用な被ばくを避けられなかった問題として、原子力災害対策本部及び福島県知事が安定ヨウ素剤の服用に適当だと考えられる時間内に服用指示を出さなかったこと(402頁から407頁)や、地震・津波と原子力災害の同時発生という複合災害に備えた防災体制がなかったことなどが国会事故調報告書で指摘されていること(440頁から446頁)